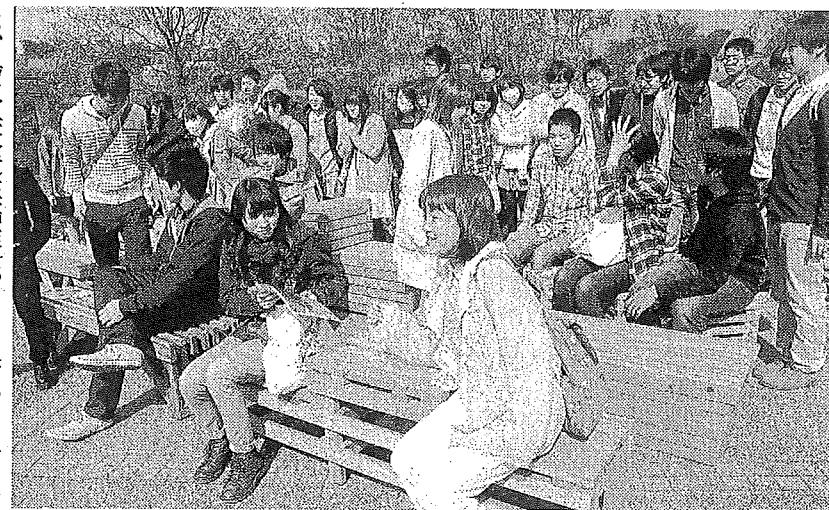


米子高専の学生

自分たちが作ったベンチに座る学生たち

ゆったり観賞して 花回廊に手作りベンチ寄贈



米子高専（米子市彦名町）の学生が19日、製作したベンチをどり花回廊（南部町）に寄贈した。園内に設置され、来園者が座りながらゆったりと花々を観賞したり、休憩するのに利用される。木の育成と活用に精通した人材を育てよう

と、鳥取県木造住宅推進協議会西部支部（高野誠司支部長）が、鳥取県の森林環境保全税を活用した「どり花回廊」の森づくり推進事業の一環で、建築学科の3年生を対象に林業体験と間伐材を使つた物作りの機会を提供。昨年度3年生だ

った39人が、1年間で下刈りや枝打ちなどを体験し、ベンチの脚を製作した。

寄贈されたベンチは、子どもを連れた高齢者のために高さを低めにしたもののや、カップルのために座る人同士の距離感を考えたものなど、来園者がどう

利用するかを考えて製作されている。

建築学科4年の藤崎美里さん（18）と景山亮

さん（18）は「この1年間で貴重な体験ができ、関わっていただき方々に感謝している。一つ一つ異なるベンチの個性を楽しんでほしい」と話していた。

（井川広志）